

真宗総合研究所東京分室公開シンポジウム

「宗教と多文化共生

—「在日コリアンの宗教」の現在—

グローバル化の進展にともなう移民の急増により、「多文化共生」の必要性が一段と重要性を増す昨今、移民の宗教に注目する研究が蓄積されている。移民にとって宗教は単なる宗教的欲求の充足だけではなく、異郷の地での生活の質を向上させる様々な社会的機能を有する。

朝鮮半島から来日した人々とその子孫で構成される在日コリアンは、儒教式の祖先祭祀(チェサ)や巫俗儀礼(クツ)、キリスト教などに関わってきた。もともとそれらは「在日コリアン(特に一世)のための宗教(儀礼)」であった。しかし、現在、在日コリアン一世のほとんどは姿を消し、二世や三世に移り変わっている。さらに韓国から新たに到来してきたニューカマーや日本人もそうした宗教(儀礼)に関わっているケースがみられる。

本シンポジウムでは、多様な文化的背景をもつ人々の混在化によって、在日コリアンが中心となってきた宗教(儀礼)の社会的機能がいかに維持・変化してきたのかを報告する。それを通して、「宗教と多文化共生」の一端を明らかにする。

「在日コリアンと宗教をめぐる研究動向の整理」

荻 翔一 (大谷大学真宗総合研究所東京分室PD研究員)

「韓国系のプロテスタント教会における子ども食堂の活動」

中西 尋子 (関西大学非常勤講師/大阪公立大学都市文化研究センター研究員)

「在日コリアン社会における仏教と巫俗のタイポロジー —多文化共生に向けて—

宮下 良子 (東洋大学アジア文化研究所客員研究員/大阪公立大学都市科学・防災研究センター特別研究員)

「日本における韓国仏教と多文化共生」

吉田 全宏 (大阪公立大学都市文化研究センター研究員)

コメンテーター 谷 富夫 (大阪市立大学名誉教授/前甲南大学文学部教授)

日時：2022年11月26日(土)13:00~16:10

場所：大谷大学 響流館 3階 メディアホール

〒603-8143 京都市北区小山上総町(地下鉄烏丸線「北大路駅」6番出口すぐ)

申込：事前申込制：<https://forms.gle/E9WKXqArvZ7j97cq5>

定員：会場参加者の定員

・大谷大学教職員・在学生 50名 ・大谷大学関係者以外 18名

※オンライン参加のURLは開催日前日にお送りいたします。

申込フォームQRコード



会場参加者へのご案内

感染拡大防止のため、以下の事項にご協力ください。

- ◎当日の朝からさかのぼって14日の間に、ご本人またはご家族が息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、発熱や咳、味覚・嗅覚の異常等の症状が1つ以上ある場合は参加をご遠慮ください
- ◎身体的距離の確保、マスクの着用、手指の消毒をお願いいたします
- ◎開催が縮小・中止となる場合がありますので、大谷大学ホームページでご確認をお願いいたします
- ◎受付時に「健康チェックシート」の提出にご協力願います

主催：大谷大学真宗総合研究所東京分室

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目19-11

問合せ：kenkyusyo_t@sec.otani.ac.jp



大谷大学HP